日ごろ学んでうる色づき、越ゆる不可の理人倫の家庫の
法度を捨て会津に一味徳川を思い慕ひ、終に秀忠
公出馬に相成りたるも中々家康公向て敵討する
すべきこと能はざるなれば関ヶ原に於て底意を忍び秀忠公に
恨深くあるより兼ねて他言を憚る秘密の法
姫ヶ丸を関白秀次公新へ嫁ぎ給ひ秀次公の
し難く思召して上方まで連れ給ひ封面をなく
秀次公ご存生のうちは御後の関白福原殿御信付
けられ秀次公の御ふくみ三十六人六条河原にて害せ
さる

1 義光公の御姫も生まれ給ふ義光公と在ますとかれば
世を御隠ひ給ひ高の日清山就後と申
す者と名乗り明日秀次公の思召くを三十六人六条河原にて
害せらるるや和姫も生まれ給ひ間敷なく御
命乞ひ給ふ姫ぶ最期の祝儀なるとて清水宣しく
と仕秀綱異てんと存じぶ日本新うつ者共
問い明日六条の使者来るこ各存ぜられ如く我数多
子供地蔵の後方事心へすてのうるべし返しも我人
と申けるまくに高くを極めた事の使ひ如何な